きたえ　やりぬき　まなびあう　　元気いっぱい　しっかり勉強　みんな仲良し

若基小だより

第16号　令和元年10月21日
文　責　　校　長　池田 典穂

４月１８日に６年生を対象として実施された全国学力・学習状況調査（国語、算数、質問紙）の結果が送られてきましたのでお知らせします。なお、６年生には、個票を配付しています。

１）教科（国語、算数）に関する調査結果　　調査対象児童数　３４名

	国語 １４問	算数 １４問
若基小学校	**８．２問**	**８．６問**
佐賀県	９．０問	９．２問
全国	８．９問	９．３問

２）各教科[領域･観点別]の状況(〇)と課題改善の手だて(◆)

【国語】

〇無回答率は領域によって異なりますが、全体的に県の無回答率よりやや高く、特に、「書くこと」の領域に関する記述式の問題で、自分の考えを表現することを苦手としている児童が多いようです。

〇「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことに関する問題では、本校正答率が全国及び県正答率より１０ポイント以上下回っています。

◆文章中から、内容を言い表す「キーワード」を見つけたり、段落に小見出しをつけたりするなど、要点や要旨をスムーズにまとめて書くための手立てを取り入れていきます。

◆書く目的や方法を明確にし、例文を示して具体的なゴールのイメージをもたせてから表現する活動や、メモや構成表を使い、事実と意見を区別して書く活動等を、段階的に取り入れるなどの工夫を行い、楽しんで表現できる場を多く設定していきます。

◆書いた文章を児童がお互いに読み合って表現の仕方について助言し合ったり、よいところを見つけて感想を交流し合ったりする活動を設定するなど、表現する力を高める手立てを講じていきます。

〇「話すこと」「聞くこと」領域の問題に対する本校正答率は、県正答率よりわずかに下回っていますが、どちらもおおむね達成の域には到達しており、前学年時より改善が見られます。

◆今後、課題となった対策として、授業の中で、協議や討論のモデルを示して話し方や聞き方について理解をさせたり、相手の発言を受けて話す場を意図的に設定したりするなどの手立てを継続して行います。

〇「言語についての知識･理解」に関する問題については、全国及び県正答率を大きく上回っており、学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる児童が多いことが分かります。

【算数】

〇無回答率が全体的に全国及び県の無回答率より低く、自分の考えを表現しようとする意欲は高いようです。

〇計算を確実に行う･グラフを正確に読み取る・図形の性質に着目するなど、技能の観点は、全国及び県平均とほぼ同程度の正答率です。基礎的基本的な知識は、概ね習得できていると考えます。

〇「示された図形の面積の求め方･計算の仕方」などを解釈し、それらについて説明の記述をする問題で、本校の全国及び県平均を１５～１８％下回っており、早急に改善の手立てが必要であると考えます。

◆式に使われている数が何を表しているのかを説明したり、求めた数が何を表しているのかを考えたりする活動を意図的に授業に位置づけ、どの児童も説明する活動ができるようになる手立てを講じていきます。また、示された情報を丁寧に解釈したり、資料を読み取って気付きを客観的に表したりする場を授業の中で多く設定し、事実や考えを表す方法や手段を習得させ、表現する力を段階的に高めていきます。

〇学習したことを活用する問題については、選択式や短答式では比較的正答率も高まってきていますが、記述式の問題ではまだまだ個人差が大きく、全体としては正答率が低い傾向にあります。

◆数直線を書いたり、図に表したりしたことを、言葉で表現する練習を繰り返し行うなどの手立てが継続的に必要であると考え、授業の中で積み重ねていけるよう指導していきます。

３）児童質問紙結果(○)とその対応(◆)

① 授業に対する関心・有用性、理解について

○「各教科（国語･算数）の勉強は大切だと思いますか」という問いに肯定的に回答した児童の割合は、国語９７％･算数１００％と極めて高い値となっており、ほとんどの児童が学びの必要性を強く感じていることが分かります。また、「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか」という問いに肯定的に回答した児童は８５.２％と高くなっています。このことは、普段より、「何のために学ぶのか」という学習の意義を意識した授業や、学びの意欲を高める工夫をした授業が展開されていることによると考えます。一方で、「各教科（国語･算数）の授業の内容はよく分かりますか」という問いに肯定的に回答した児童の割合を見ると、国語については８５.３％であり、全国及び県平均を上回っていますが、算数については７６.５％で、全国及び県平均よりやや低くなっています。中でも「当てはまらない（分からない)」と回答した児童が8.8％いることは、授業の理解が十分ではなく、困り感を感じている児童がいることを表しており、早急な対応が必要であると考えます。

◆今後も、教師が、日々行っている授業改善に真摯に向き合い、「基礎･基本を重視した授業」を行っていくことが授業に対する理解度を高め、ひいては、「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか」「算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考えますか」といった問いへの肯定的な回答につながると考えています。

② 学校での学習について

○「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という問いに対して肯定的に回答した児童の割合は７６.４％、「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対して肯定的に回答した児童の割合は８５.３％となっており、全国及び県平均を上回っています。これは、授業で自分の考えを多様に表現したり、友達と考えを共有したりする活動によるところであり、児童の意識としては、表現力の高まりを感じていることの現れであると考えます。一方で、「…分かるようにノートに書いている」という問いに対して、「当てはまらない（書けていない)」と回答した児童が１１.８％と比較的高い割合となっており、明確に二極化していることが課題です。

◆今後も、まず「自分の考えをもつ」こと、そして、それを「図･式･ことばなど自分にできる方法で表す」ことを中心に据えた授業づくりを続けていきます。また、見通しの段階を丁寧に扱い、例文や条件などを共有し、考えを見出すきっかけとなる場面を大事にした授業を展開し、全ての児童が自分なりの表現で考えを表せるようになることをめざしていきます。

③ 家庭での学習について

○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という問いに対して、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した児童が３８.３％と全国及び県平均より高く、また、「学校の授業以外に、１日当たりどのくらいの時間、勉強をしますかという問いに対して、「３０分より少ない」と回答した児童が１１.８％いました。家庭学習の時間の確保について課題があることが分かります。

◆家庭学習については、その習慣を早い段階から身につけておくことが必要で、そのためには家庭と連携した指導が不可欠です。日々の学習環境の整備や家庭学習強化週間の取組を継続して行うことが肝要であると考えています。また、知識や技能等の習得については、取組後の評価も大切です。宿題の目的を改めて学校･家庭･児童で共通理解し、褒め励まして、意欲の向上と家庭学習の充実を図りたいと考えます。

④ 学校生活、自分自身について

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をしている児童が９４.１％、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対して肯定的な回答をしている児童が９１.２％となっており、学校生活には概ね満足している児童が多いことが分かります。
今後も、児童のよさを認め、励まし、個性を伸ばす指導をしていきたいと思います。

○「自分にはよいと思うところがありますか」という問いには９７.１％の児童が、「将来の夢や目標を持っていますか」という問いには８８.２％の児童が肯定的な回答をしており、自分自身への期待感や肯定感をもつ児童が多いと考えます。自己肯定感がますます高まるよう、日常の温かな言葉掛けを継続して行っていきます。また、「人が困っているときには、進んで助けていますか」という問いに対しては、９４.２％が肯定的な回答で、人間関係を円滑に築きたいという思いをもつ児童が多くいることがうかがえます。